

県立博物館・公文書館の整備にかかる経緯について

1 県立博物館の現状と課題

(1) 概要

県立博物館は、昭和28年(1953)6月、東海地方で初めての総合博物館として開館し、三重の自然と歴史・文化をテーマに、資料の収集・保存・調査・展示・教育普及の活動に取り組んできました。平成18年度からは、新たに、収集資料を県内各地で紹介する移動展示や、みんなの博物館サポートスタッフ事業を展開し、博物館機能の強化に努めています。

(2) 建物・施設面積、収集資料点数

- ・敷地面積 3,520.65 m² + 60.5 m²(借地)
- ・建築面積 1,360 m² (本館 267 m²、付属建物 395 m²、収蔵庫・事務室(旧図書館)698 m²)
- ・延床面積 3,176 m² (展示エリア 333 m²、収蔵エリア 1,718 m²、事務エリア等 1,125 m²)

収蔵スペースの不足を補うため市内に3カ所(計546m²)の館外収蔵庫あり

- ・収集資料数 279,550点 (自然分野260,539点・人文分野19,011点、平成19年3月現在)

(3) 平成18年度の実績

- ・入館者数 16,977人
- ・移動展示入場者数 26,526人 (桑名展・志摩展・名張展・亀山展・尾鷲展)
- ・教育普及事業 554人 (博物館教室・フィールドワーク、延回数17回)
- ・サポートスタッフ 74人 (登録者数、平成19年7月現在110名)

(4) 課題

- ・施設の老朽化により、貴重な資料を安全かつ適切な環境で収蔵・展示することができない。
- ・施設が狭いため、28万点にのぼる資料を収蔵・展示できるスペースが足りない。
- ・サポートスタッフ活動をはじめ県民参加・交流型の取り組みに必要なスペースが十分に確保できない。
- ・耐震性能の不備への対応が危急の課題であるが、多額な費用がかかる。

2 公文書館構想の現状と課題

(1) 概要

現在、三重県公文書管理規定に基づき、文化振興室で、歴史的・文化的価値のある県の公文書の選別・保管業務をおこなっている。また、同室県史編さんグループの編さん業務にともなって収集した県史関係史料のほか、明治期の県庁文書、地図・絵図、戦前・戦後の公文書、県公報、法令関係綴、写真・映像フィルム、購入・寄贈の古文書などの資料も保管されている。

(2) 保管の状況

- ・保管場所 鳥居会館・栄町庁舎内(県史編さん室内書架等) 合計405m²
- ・保管資料数 140,024点
 - 保存公文書(選別文書) 4,048点 (保管場所：鳥居会館)
 - 県史編さん収集資料 135,976点 (保管場所：栄町庁舎内・一部鳥居会館)

(3) 課題

- ・保管スペースの不足。
- ・保管環境の不備(鳥居会館での保管は段ボール箱積みであり、閲覧公開への対応が困難)
- ・県内の公文書の保護と保存の促進などに対して指導的な役割を果たし、閲覧公開や各種の問い合わせなどに機能的に対応するためには、施設・組織的な整備が必要。

3 整備にかかる経緯

	整備にかかる経緯	その他の動き
S28年6月	三重県立博物館 開館	
S57年9月		三重県立美術館 開館
S61年2月	三重県文化審議会「三重県における博物館構想」答申	
H1年10月		齋宮歴史博物館 開館
H3年3月	県議会「県立中央博物館の早期建設について 請願採択	
H5年7月	「三重県センター博物館(仮称)基本構想」公表	
H6年3月	「三重県センター博物館(仮称)基本計画」策定	
H7年4月	「三重県公文書館(仮称)基本計画」策定	
H6年10月		県総文センター開館 (県立図書館開館)
H7年3月	「三重県センター博物館(仮称)展示基本設計」策定	
H8年2月	「三重県公文書館基本設計」策定	
H8年3月	「三重県センター博物館(仮称)建築基本設計」策定 センター博・公文書館、同一敷地内に別棟として 設計された その後、経費圧縮のため合築計画に変更	
H10年3月	センター博・公文書館計画白紙に(ハコモの整備3年間凍結)	
H10年8月	「新しい博物館を考える懇話会」設置	
H11年3月	「新しい博物館を考える懇話会」提言(中間報告)	
H12年3月	「新しい博物館を考える懇話会」最終報告	
H14年3月	県議会「三重県における自然系博物館整備を 求める請願書」(自然史系博物館をつくる会提 出)採択	
	懇話会の最終報告以後、実現に向けた検討が重ねられたが 結論得られず。	
H14年11月	博物館整備検討プロジェクト会議を設置し、再度、当 初の基本構想を踏まえ、新たな検討することに	
H15年3月	自民党県議団・無所属MIE「ミュージアム構 想に関する提言(第1次)」提出	
H16年1月	博物館整備検討プロジェクト会議提言 「三重県の新しい博物館のあり方について」	
H16年5月	プロジェクト会議の提言をうけて、自然資産・文化資 産調査および新博物館整備検討業務実施 12月完成 一方、公文書館計画は、その一環として「歴史資料の 保存活用環境づくり事業」を実施(H16~18年度)	
H17年3月	「三重県立博物館整備にかかる当面の方針」公表 財政事情から博物館の建設は当面見送り、現博物館の 改修(暫定整備)と移動展示を先行実施することに	
H18年10月	「暫定整備基本設計・耐震補強計画」策定 精査の結果、改修に多額の費用がかかることが判明	
H19年2月	知事選挙公約に新博物館整備計画の策定を掲載	熊野古道センター開館